

水産業の課題「AI×ドローン」で解決

大島商船 高専DCONで最優秀賞受賞

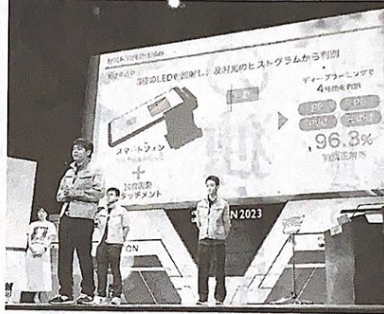
高専生たちが培った「AI×ドローン」(深層学習)を応用して生知能(AI)分野のデ



優勝した大島商船高等専門学校の「Smart Searcher 開発LAB」

を企業評価額で競う。そんな大会「第4回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2023(高専DCON)」が東京都内で開かれ、最優秀賞には大島商船高等専門学校(山口県周防大島町)のチームが選ばれた。熱い戦いが繰り広げられた高専DCONに迫った。

日本ディープラーニング協会の主催で4月29日に開かれた高専DCONの本選には、参



鳥羽商船高専のチームは、プラスチックの循環を支援するプランを披露した

熱のこもった事業プランのプレゼンテーションを披露した。その中で頂点を射止

加した約40チームの中から予選を経て勝ち残った10チームが出場。各チームは会場に作品を展示するとともに、

めたのが、大島商船高専の「Smart Searcher 開発LAB」だ。企業評価額は3億5000万円、起業資金として100万円が授与された。

料危機から世界を救い、多くの人が安心・

にAIを組み合わせて養殖場の魚を効率的に管理する仕組みで、成長の遅い魚を選別してえさを与える。壇上で

水中を潜航する「水中ドローン(小型無人機)」が賞も受賞した。考案したサービスは、プラスチックが循環される社会づくりを支援する「りぷら」。ディープラーニングで材質を高精度に判別することが特徴で、スマートフォンで実現できる手軽さも売りのだ。

安全に暮らせる社会を実現する」という思いを伝えた。

野に、高専生の一段の飛躍への期待感も示した。

3位は一関工業高専(岩手県一関市)のチームで、雇用者のやる気や満足感などの様子を

示す「WB度」を観測して企業の対策につなげるサービスが評価。それ以外のアイデアにも熱い視線が注がれた。初めて海外からの参加校も選出された。実行委員長の松尾豊氏(東京大学大学院工学系研究科教授)は大会後に報道陣の取材に応じ、「ハードとディープラーニングのコラボレーションがしっかりとでき、それをビジネスに持っていくかという点でも相当レベルが上がってきている」と総評。次回大会を視野に、高専生の一段の飛躍への期待感も示した。